

共通事業・地域事業の進捗率(地域事業費ベース) 単位:千円

区分	H17~H26 配分額			進捗率 (H17~H22) (B/A)
	(A)	H17~H22 (H22当初予算を含む) (B)	H23~H26 (A-B)	
共通事業	18,758,585	8,246,575	10,512,010	43.96%
地域事業 合計	55,175,269	37,072,834	18,102,435	67.19%
合併前上越市	28,817,329	21,981,501	6,835,828	76.28%
安塚区	1,935,533	1,204,974	730,559	62.26%
浦川原区	1,470,748	644,831	825,917	43.84%
大島区	1,434,415	785,799	648,616	54.78%
牧区	1,522,525	820,774	701,751	53.91%
柿崎区	3,015,906	1,780,335	1,235,571	59.03%
大潟区	3,005,991	1,435,448	1,570,543	47.75%
頸城区	2,872,155	1,724,263	1,147,892	60.03%
吉川区	1,933,290	1,312,329	620,961	67.88%
中郷区	2,296,351	1,310,526	985,825	57.07%
板倉区	2,647,530	1,471,804	1,175,726	55.59%
清里区	1,130,230	819,699	310,531	72.52%
三和区	2,433,053	1,394,852	1,038,201	57.33%
名立区	660,213	385,699	274,514	58.42%
合計	73,933,854	45,319,409	28,614,445	61.30%

地域事業制度の見直しに踏み込む発言は慎重に
 現行の地域事業は合併時の約束事、10年間は守るべき

9月市議会の一般質問で村山秀幸市長がのべた地域事業制度についての発言が議員や関係自治区を揺さぶっています。

市長の発言は、笹川栄一議員や内山米六議員等の旧上越市、13区の地域事業の進捗状況を

問う質問に対する答弁の中でふれられたもの。市長は、「市全体の進捗率は今年当初予算分を含めると67%になる。進捗率のトップは旧上越市で76%。最低は浦川原区の44%だ。13区は楽観できないが、地域事業費枠のなかにほ

ぼおさまりそう。旧上越市内では、土地開発公社の保有地取得や新幹線関連など取り組むべきことがいくつもあり、配分された事業費の中で対応しきれない。「制度そのものの見直しを真剣に議論すべきところなきいて」とのべたのです。

合併時に約束された合併後10年間の地域事業費枠は、合併した旧14市町村が計画していた総合計画を公平にすすめていくために合併時の財政規模などに応じて決められたものです。しかも、旧町村にとつて、この地域事業は合併することを決断する上で重要なポイントの一つとなりまして。それだけに、旧上越市の枠が足りなくなるといって



陶芸で「尾神と月」

第8回久比岐野陶芸展がこのほど市民プラザのホールで開催されました。

写真は大潟区在住の小池枝美子さんの「尾神と月」という作品です。丸い尾神岳とお月さんがよく似合いますね。



シリーズ 上越市内の橋

第48回 小仲山橋

「小仲山橋」と書いて「こなかやまばし」と読みます。頸城区の大池と小池の境にかかった橋です。大池では毎年9月23日に「大池まつり」が開か

れています。今年のはあいにくの雨で低調でしたが、晴れた年では、500人からの人が集まり、鯉やニジマスのつかみどり、カヌーの試乗体験などを楽しみ、青空市場もにぎわいます。

橋長は約12メートル。竣工は1990年(平成2年)3月です。

すぐに見直しに着手するようにはあつてはならないものです。まずは足りなくなりそうな所で計画している地域事業の削減などに取り組みべきだと思えます。いずれにせよ、この問題は慎重には慎重を期してほしいと思えます。

(注)上の表の事業配分額は平成19年に一度見直された数値が使われています。

本当は仲良しなだけけれど、思うように頭も体も動かないなかで、ついつい言い争いをしてしまう夫婦。おらちもそうだという人はいませんか。久しぶりに柏崎市にある妻の実家を訪ね、義父を見舞ったときのことです。私と妻が居間に入ったその時、義父と義母が言い争いをしていました。それも小便の仕方をめぐって……。

義父は数年前に呼吸困難に陥り、緊急入院して以来、酸素ボンベなくして暮らせなくなっています。退院した時点で、肺の機能が働いているのは正常な人の四割くらいでしたから、いまはもつと低下しているのかも知れません。家族みんなのためにと、自宅で日課にしていたカーテンの開け閉めもほとんどしなくなっていました。それどころか、歩くとき息苦しくなるので、トイレに行くことさえ面倒がるようになってきています。「歩かないで、ねたきりになっちゃうよ」と家族からいくら言われても、歩かないですむポータブルトイレを使う機会が徐々に増えてきています。

ふたりの言い争いは小便専用型のポータブルトイレ（いわゆる尿瓶）を使うべきか洋式便器型トイレを使うべきかをめぐってのものでした。小便専用型を使った時はどうしても小便の切れが悪く、パンツやズボンに汚しがちです。一方、洋式便器型はズボンもパンツも下ろして用をたすので、比較的汚れないのです。汚せば、当然洗濯をしなければなりません。義母は、家族みんなが使っているトイレ、それも洋式のトイレを使ってくれと義父に迫っていたのです。

「あーあ、おっかないおっかさだ」
義父がそうつぶやくと、義母も負けてはいません。

「だって、言うことを聞かないんだもん」と返しました。

言い争いになるのはトイレのせいだけではありません。最近、義父の耳が遠くなくなったことから夫婦の会話が思うようにできません。言いたいことを言っても伝わらない。そこから、イライラしやすくなっていることもあるようです。

こうなると妻の出番です。ニコニコしながら義父のそばまで行き、大きな声で、「ねえ、父ちゃん、にくまれたらダメさ。母ちゃん、困っているがだからさ、かわいがられるようにしないといけないよ」

「そっか……」

まだ不満がありそうでしたが、その場は何とか収まりがついたようでした。

ところが、その直後、今度はメガネ騒動が起きてしまいました。いつからだかわかりませんが、義父はメガネをどこかにしまい忘れてしまいました。この日、義父は妻が持ち込んだ短歌集を読む気になっていました。最初は大きな虫めがねで読もうとしましたが、どうも気分が乗らなかつたようです。義母や妻にも頼んでメガネ捜しがはじまりました。

いつもの新聞置き場、テレビの周り、ダンス、風呂場など捜し回っているうちに義母が洗面所でメガネを発見しました。洗面所の、タオルなどがかけられているところの奥に小さな押入れがあります。そこにちゃんとしまってあつたのです。

見つかったメガネは遠近両用で、五、六万円もする代物だそうです。見つけてもらった義父は、ニッコリとして、義母の方を向いて手を合わせ、「ありがとさん」と言いました。これで終わればめでたし、めでたしなんです。義母がひと言、言いました。「腹の底からでないのがわかるんさ」。こりや、たいへん、たいへん……。

住宅リフォーム助成制度創設へ大きく前進



朗報です。22日の一般質問で村山市長は、住宅リフォーム助成制度の創設に向けて検討を開始することを明らかにしました。これは日本共

産党議員団の上野公悦議員の質問に答えたものです。これには質問者の上野議員も議場の他の議員もびっくりでした。同議員が「予想外の答弁だった。反論の質問をいくつも準備してきたが、やる事がなくなった」とのべると、議場は爆笑につつまれました。

旧吉川高校、改修・補強工事着々

旧新潟県立吉川高校の建物（写真中央）は来春、吉川高等特別支援学校（仮称）として再出発することになっています。

写真は原之町の間々谷池から工事の様子を撮ったもの。資材を運ぶ大型のクレーンが目立ちます。現在、管理棟の内部・外部の改修や耐震補強等の工事が行われています。

施工者は㈱サトウ産業。工期は来年の1月14日までとなっています。他の関連工事もこれから急ピッチで行われます。



産党議員団の上野公悦議員の質問に答えたものです。

この日、上野議員は住宅リフォーム助成制度について、「上越市はこれまで経済への誘導効果に対する疑問と県内及び近隣市での未実施を理由に、制度導入しないとしてきたが、この考えに変わりはないか」「改めて制度を創設すべきと考えるがどうか」と質問しました。

これに対して市長は、「経済効果に対するこれまでの認識を改めた。近隣の市長さんの考えを聴いたり、宮古市などの先進事例を学ぶ中で効果を確認できた。どれくらいのニーズがあるのか、どれくらいの支援がいいのか、これから取り組まれる国の経済対策とからめながら詳細はこれから詰めさせていただく」と答えたのです。